



お知らせ

記者発表資料
配布日

平成30年7月11日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ
広島県政記者クラブ
中国地方建設記者クラブ

平成30年7月豪雨における温井ダムの効果について【速報】

温井ダム流域では、7月5日から7日の梅雨前線の影響による豪雨により、温井ダム上流域の降り始めからの流域平均雨量は256mmを記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量が毎秒約480m³となりました。

これを受けて、温井ダムにおいては防災操作^{※1}及び、特別防災操作^{※2}を実施し、最大毎秒約315m³、総量で約1千万m³の洪水をダムに貯めました。

この結果、広島市安佐北区安佐町飯室付近で水位を約40cm低減する効果があったと推定されます。

※1「防災操作」とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

※2「特別防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じ、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水容量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を通常よりも減じる操作です。

ただし、今後、多くの降雨が予想される場合は実施出来ません。

※各数値は速報値であり、今後変わることがあります。

<問い合わせ先>

○国土交通省 中国地方整備局 温井ダム管理所

TEL 0826-22-1501 (代表)：(平日・昼間)

管理所長 江角 信良 (内線 201)

【担当】 専門官 西山 徹 (内線 330)

温井ダムは、太田川水系の洪水防御、広島市とその周辺地域への水道用水の供給、河川環境の保全（生態系等にとって必要な河川流量の確保）、ならびに発電を目的として作られた施設です。

温井ダムの防災操作による治水効果（平成30年7月豪雨）【速報】

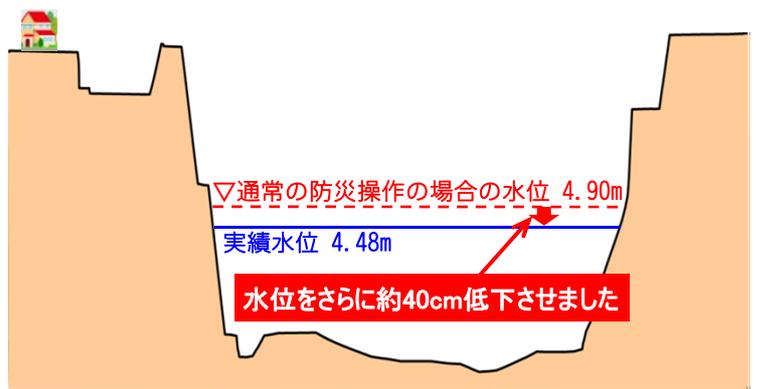
☆広島市安佐北区安佐町飯室付近で河川水位を約40cm低減

- 梅雨前線の影響による7月5日から7日までの豪雨により、温井ダム上流の流域では**流域平均雨量256mm**となり、ダムへの最大流入量は毎秒約480m³を記録しました。温井ダムでは防災操作を実施し、さらに太田川下流の被害低減を図るため特別防災操作に切り替え、放流量を毎秒100m³まで絞り、**合計約1千万m³の量の洪水を貯め、最大毎秒315m³の洪水を貯めました。**
- この結果、広島市安佐北区安佐町飯室付近の水位を**約40cm低減させる効果があった**ものと推定されます。

位置図



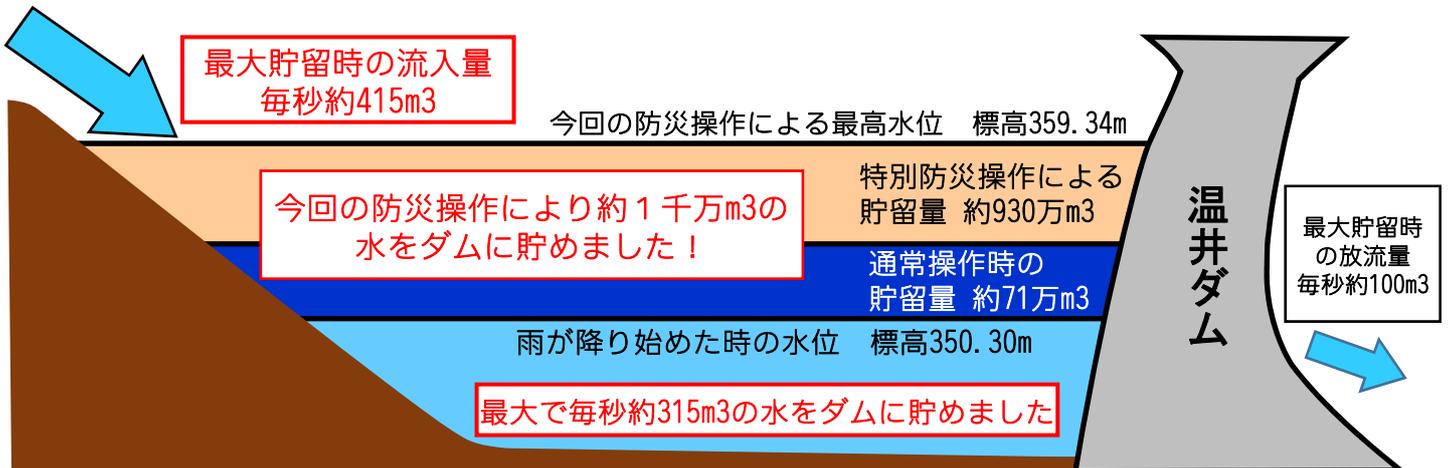
広島市安佐北区安佐町飯室付近における防災操作の効果



普段のダム貯水位（標高350.30m）



今回の最高ダム貯水位（標高359.34m）



※数値は速報値であり、今後変わることがあります。